

令和8年10月

人権一口講座



「国際高齢者デーに考える思いやり」

私は今年の4月からバス通勤を始めました。帰りのバスでは座れないことが多く、優先座席の様子を目にする機会が増えました。気になるのは、空いている優先座席の前に立つ人が、結果として席を塞ぎ、座席が利用しにくくなっている場面です。

そこで私は、なるべく優先座席の近くに立ち、席が空いていたら必要な人に声をかけてみることにしました。しかし、これが意外と難しいのです。

高齢の方には喜んで座っていただけますが、そうでない場合はお互いに遠慮してしまい、微妙な空気になることもあります。

その経験から、「席を譲るのは大切」と分かっています、行動に移すには勇気がいることを実感しました。

毎年十月一日は「国際高齢者デー」です。

高齢者の尊厳や権利について考えるために国連が定めた日です。

高齢者は支えられるだけの存在ではなく、豊かな経験や知識を持ち、社会を支える大切な一員であることが示されています。

人権を大切にすることは、一人ひとりが尊重されることです。

高齢者の人権を守ることは、特別なことではありません。

相手の立場を想像し、必要なときにさりげなく配慮することから始まります。国際高齢者デーを機に、身近な公共交通機関での行動を通して、誰もが気持ちよく過ごせる社会について考えてみたいものです。

